

京都岡本記念病院

がん相談支援センターだより

ともに

VOL.2

2020.9

がんと診断されたときから、あなたの心と身体を支えます。
そんなチーム医療が、京都岡本記念病院にあるのをご存じですか？

京都岡本記念病院の緩和ケア



「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的问题、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって苦しみを予防し、和らげることで、QOL（quality of life：生活の質）を改善するアプローチである」という文章は、2002年WHO（世界保健機関）によって発表されたもので、ここを目指して臨床現場では、試行錯誤を

繰り返しています。この定義が示しているように、緩和ケア＝終末期という考え方ではなく、早期から患者さん・ご家族への関わりが重要になってきます。診断時から生じる気持ちのつらさに寄り添い、出現する身体のつらさに早期から多職種で協働し対応していくことが大切と考えています。

当院では、医療者同士の連携、医療者と患者さん・ご家族とのつながりを大切に、患者さん・ご家族に伴走していきます。

緩和ケアチームのご紹介

治療の診断、治療経過、終末期それぞれの期間で日常生活の質を低下させてしまう痛みをはじめとした苦痛をともなう身体症状、不安や気分の落ち込みといった気持ちのつらさなど問題がそれぞれ生じます。緩和ケアチームでは、多職種で構成されたメンバーで、その人がその人らしく過ごせるように問題解決できるようなケアの提供をしています。メンバーは、医師(身体・精神)、看護師(認定看護師・病棟看護師)、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、リハビリセラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)、薬剤師、公認心理師、がん相談員で構成されています。それが専門とする視点から、問題解決の糸口を見つけていけるよう関わっています。



看護師

外来では、診察時の病状説明の同席をし、意思決定のサポートを行うこともあります。

入院では、主治医からのコンサルテーションを受けて、目標設定を行い、目標達成ができるように、緩和カンファレンス・回診を週2回行っています。

そのほかに、緩和ケアリンクナース会を月1回開催し、研修への参加や勉強会などを行い、多くのスタッフに緩和ケアを知ってもらい、多くの患者さんに緩和ケアを提供できるように活動しています。

身体担当医師

チームの責任者であり、主に身体症状を担当しています。がん等の病気を患っておられる方は何らかの悩み事をお持ちだと思いますが、その悩みを和らげるのが緩和ケアであり、そのような患者さんを手助けするのがわれわれ緩和ケアチームですので、お気軽にチームへご相談ください。



スタッフは緩和ケアチーム(Palliative Care Team)の頭文字をあしらったチームバッジを身につけています。



精神担当医師

緊張すると汗をかく、恋をするとどきどきする(動悸がする)のはなぜでしょうか?

「肉体」と「精神」は分けて考えがちですが明確に分けることはできますか?

身体がしんどいときに気持ちがつらくなるのは自然な姿です。孤独を感じたときや気持ちがつらくなったりしたときはそのまま私たちに伝えてください。

管理栄養士

食事は楽しみな時間であり、また治療を乗り越えていくために栄養管理は不可欠です。

でも病気の影響で食べるため工夫が必要な時があります。そうした中で、少しでもおいしく楽しく食べていただくために、緩和ケアチームの一員として、さまざまな職種と連携しながら栄養支援をお手伝いさせていただきます。

薬剤師

痛みなど患者さんの症状に合った薬剤の選択や適正使用をサポートしています。また医療用麻薬に対する患者さんの不安を取り除き、安心して治療を受けていただけるよう努めています。薬のことだけでなく、患者さんのこころのケアなど多職種と連携をとりながら取り組んでいます。



公認心理師

がん患者さんは、からだの症状に加えて、さまざまなおこころのつらさも抱えながら治療を受け、生活しておられます。公認心理師は、医師や他の職種と連携しながら、「こころ」の側面から、患者さんやご家族をサポートさせていただきます。



リハビリテーション

当院のリハビリテーションは、症例に合わせたりハビリテーションや緩和ケアを組み合わせ、患者さんの苦痛を少しでも緩和できるようなリラクセーションや、最期まで身体の機能低下が起こらずその人らしく過ごすことができるよう、可動域訓練や日常生活動作練習などを行っています。

医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)

誰かに話をきいてほしい、一緒に考える人がほしい、こんな物や場所があれば助かるのに、それらを紹介してほしい…。

そんな時にそっとお役に立てればと思います。患者さん自身が治療・生活・人生の主役であり続けられるようお手伝いさせていただきます。

がん相談支援センター

どこに相談していいか分らない、自宅から近いところで緩和ケアをうけたいなど、通院の有無にかかわらず、どなたでも利用いただける相談窓口です。緩和ケアの認定看護師も在席しており、チームと情報共有をしながらサポートいたします。まずはご相談ください。

京都岡本記念病院 がん患者サロンやまぶきの会から

がん患者さん、ご家族、ご遺族のみなさまへ

がん患者サロン「やまぶきの会」にお越しいただいた皆さま、一度足を運んでみようと考えておられた皆さま、現在もサロンのお休みが続いている、不安な気持ちをお持ちの方も多いと思います。1日でも早く「やまぶきの会」が開催され、皆さんとお会いできる日を祈っております。

がん患者サロン「やまぶきの会」は患者さんやご家族の支え合いの場として、毎月第1・第3金曜日に開催しております。しばらくお休みとさせていただいておりますが、ご相談の際には、京都岡本記念病院 がん相談支援センターへご連絡ください。



社会医療法人 岡本病院(財団)

京都岡本記念病院 がん相談支援センター

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地

TEL 0774-48-5500(代表) FAX 0774-46-7835(地域医療連携室内)

[受付時間] 月曜日～土曜日 午前9時～午後5時

[E-mail] ganrenkei-2@okamoto-hp.or.jp